

平成26年産水稻作況指数 101

農林水産省は平成26年9月15日現在の水稻の作況指数を発表した。8月27日に公表された8月15日現在の早場米の作況は「良」ないし、「平年並み」であったが、予想収量は10aあたり537kg（作況指数101）となった。また、作付面積は163万9,000haで主食用作付見込み面積は147万4,000ha、予測収穫量は789万9,000tと見込まれている。

地域毎に違う作況 日照不足が影響 収量は東高西低の傾向

北海道から関東・東山地域では登熟が一部地域を除き8月の日照不足により平年を下回るが全もみ数が総じて多い、またはやや多くなっている事から平年並み以上ともされている。一方で東海以西では日照不足の影響により、全もみ数及び登熟が平年を下回っていると見込まれている。全国の10a当たりの予想収量は以下の通り。

作況指数と生産現場の声（まとめ）

北海道は昨年度につづき豊作となっているようだ。東北筋では太平洋側は出穂がやや早い作では出穂以降が涼しかったことから穂数はあるものの、登熟がもうひとつで平年並み。9月25日を過ぎたあたりの収穫は良さそう。日本海側は出穂期を過ぎた後の天候が時折寒く曇天・小雨が続いたため早い収穫のものは水分が多く収穫を遅らせて刈取りしているとの事。作柄は平年並みか1俵落ちでやや良という感覚はないようだ。長野以西では例年より穂数が少なくまた、日照不足や雨の影響でイモチ病などの発生が影響し100を下回る作況通りの印象だという便りが届いている。

都道府県別作況指数（9月15日現在）



MAC掲示板～休業案内～

来る **10月10日（金）** は当社創立記念日の為、休業とさせていただきます。

GARDEX2014 出展のお知らせ

来る10月15～17日に開催される、GARDEX2014に当社の展示ブースが出展致します。ご来場の際は、是非お立ち寄り下さい。

開催詳細：<http://www.gardex.jp/>

開催場所：幕張メッセ（千葉県）

西部菱肥会運営委員会開催

去る9月11～12日、和歌山県にて西部菱肥会運営委員会を開催した。理事長・小浦産業㈱小浦社長、運営委員長・山本コーポレーション㈱山本社長を始め、運営委員・岡本商事㈱岡本社長、(有)丸喜商店村澤専務、立石商事㈱立石専務、清和肥料工業㈱井窪和歌山支店長、賛助会員エムシー・ファーターイコム㈱大阪支社信田第二グループ長、事務局2名の合計9名が参加し、一泊二日の研修を行った。

第一日目は、岡本運営委員の地元田辺市にて運営委員会を開催した。今回開催の目的はこの11月に全国菱肥会が開催に備えて、西部菱肥会役員の情報交換を図るもの。

中国・四国地方は、大雨の被害が発生し農作物への影響が懸念される。水稻の生育発表によると、西日本は平年並みの指数だが、現場の農家の話では、平年より減収になるとの声もある模様。また、和歌山県は柑橘・梅の産地だが、柑橘は雨と日照不足により糖度が上がらず農家は品質の悪化を心配している等の情報があった。

消費税増税後の落込み、天候不順による水稻の生育への影響と米価の下落等肥料業界にとっては厳しい状況の意見交換となったが、西部菱肥会として、農業情勢の変化に対応すべく今後とも定期的に役員会を開催することとした。

第二日目は、車で二時間ほど移動し、串本町にある「トルコ記念館」を見学した。同館は明治23年同町大島樫野崎沖で嵐のため遭難したエルトゥールル号の乗組員を地元の人々が救助、温かい対応したことが日本とトルコの友好の始まりとして、記念館に遺品等が提示してあり、同館展望台から座礁した地点を見ることができる。実際見学してみると、かなり近い距離で座礁しているがほとんどの乗組員が犠牲となっており当時の厳しい状況が窺い知れた。また、養殖マグロの生簀を見学した。昨今「近大マグロ」が有名になったが、現在、近大マグロの養殖簀は見学受入れを中止しているため、和歌山東漁協大島支所の簀を見学した。約10分漁船に乗り簀に到着、マグロの餌やり体験をした。

小魚を網ですくい簀に放り込むとマグロが勢い良く食いつく。マグロは稚魚を徳島の漁師より購入し、2～3年かけて養殖・出荷する。下船後、マグロの試食をしたが、鮮度も良く大変美味しいマグロであり農業と直接関係はないが、和歌山県ならではの企画で、参加者からは普段体験できない研修のため好評であった。11月20日の全国菱肥会に向けて充実した二日間となった。(大阪支店川崎)



10/8の夜は皆既月食です。大気中にチリが少ないと大気を通り抜ける光の量が多くなり明るいオレンジ色に、逆にチリが多いと大気を通り抜ける光の量が少なくなり、黒っぽく見えるそうです。次回、日本で観測できる皆既月食は2015年4月4日21時頃との事。今回見逃した方、見えなかった方も、また夜空を見上げるチャンスがありますよ。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>